

老年期女性のメンタルヘルスとそのケア

下田 健吾／木村 真人

Summary

老年期女性のメンタルヘルス問題として認知症とうつ病が挙げられる。うつ病は加齢に伴う心理的状态として過少診断されやすいが、身体疾患の悪化や認知症の危険因子となり早期の診断・治療が望まれる。老年期うつ病の要因として喪失体験や器質的変化が重要であり、診断は老年期の心性を理解し大うつ病の枠にとらわれないことが肝要である。治療は個々の要因を踏まえ抗うつ薬による薬物療法と心理療法を組み合わせる。ケアモデルは多職種が関わるコミュニティー・ベースにおける介入が理想的であり、今後の整備が期待される。

Key words

老年期うつ病
喪失体験
血管性うつ病
治療可能な認知症
ケアマネジメント

Kengo Shimoda

日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科准教授

Mahito Kimura

日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科病院教授

はじめに

内閣府による『平成29年版高齢社会白書』¹⁾によると65歳以上の高齢者が総人口に占める割合(高齢化率)は27.3%にまで増加している。高齢者人口の性比をみると、男性：女性の比は約3：4で明らかに女性の占める割合が多い。高齢化社会で増加が見込まれる精神および行動の疾患は認知症とうつ病である。老年期のうつ病は有病率が高いとされているものの、加齢に伴う正常な老化や心理的状态、あるいは認知症や身体的な疾患と解釈されがちであるため、過少診断となりやすい。老年期のうつ病は自殺と関連し、身体疾患の悪化や認知症の危険因子となる²⁾とされており早期発見・早期治療が重要である。本稿ではこうした背景を踏まえ、老年期女性において特に頻度の高いうつ病を中心に、要因、診断、治療・ケアについて概説する。

老年期に多い女性のうつ病

女性は男性と比べて約2倍うつ病に罹患しやすいことはよく知られている。老年期においても女性であることはうつ病の独立した危険因子であるといわれている³⁾。うつ病は女性に多い、性差のみられる疾患である。厚生労働省の患者調査によると、女性は各年代で男性よりも患者数が多いが、特に60～80歳代における患者数は男性よりも抜きん出て多い(図1)。